

広報ひらつか

—号 外—

昭和52年3月31日／神奈川県平塚市役所発行／編集・企画室秘書広報課／浅間町9番1号
電話(23)1111-代表
毎月15日／77,000部／全世帯配布(1部5円)／昭和31年10月3日 第三種郵便物認可 郵便番号254



ショッピング街へ夢のせる

う回線国道化へ準備すすむ

バイパス道路と呼ばれている「国道う回線」が、近く国道に移管のはこびとなります。馬入橋の手前、榎木町五番先から、古水水橋手前の平塚(柳町)九七三番地先までの距離二千九百五十六メートル、幅員三十メートルの市道を国道にするもので、建設省では「国道一号线道路区域の変更」という方法で、現在の国道一号线との付け替えを行うものです。したがって、国道の振り替え後は市道となる銀座通り商店街界内では、五十年代年間市民の間になじまれてきた国道だけに、「ちょっとさみしい気もする」との声も聞かれました。また一方では、「伊勢佐木町通りのようになるのかな」と、早くも中心商店街のビジョンづくりへ期待を寄せる向きもあります。

こうした中で、市ではこの国道移管に備えて、三月市議会定例会最終日の三月二十五日、一連の市道認定案を追加議案として上程、原案どおり可決されました。国道一号线の平塚市内区城三・七キロのうち、国道一号线と分岐する区間、二千六百五十八メートル、幅員二十二メートルを「東海道本通り線」として認定したのをはじめ、国道一・二九号線の延長上にある駅前通りの県道平塚停車場線と、国道一・二九号線の一部である国道一号线から国道う回線までの間、合せて三百七十八メートル(幅員三十六メートル)を「駅前大通り線」とし、東海道本通り線との関連を深めさせました。また、国道一・二九号線を基点とする通称パイロット線といわれる県道明石大島線の一部である八幡山公園の南側部分二百二十一メートルについても、同県道の付け替えに備えて市道認定し、追分に通じている市道幹道二十号線の一部としました。

告示待ちの段階にあるこの国道う回線は、昭和二十一年に計画され、戦災復興事業と区画整理事業の中で建設されたもので、戦後三十年間の歴史を秘めた道路ともいえます。いずれにしても、加藤慎吉市長就任以来の努力が、ようやくして実を結んだわけで、市政四十五周年を迎えた平塚市にとりまして、またとない朗報といえましょう。

う回線沿いのご家庭で、歩道を切り下げないまま車を乗り入れている方、また、切り下げを希望される方は、市にお申し出ください。いずれも自費施工となりますが、詳しくは、市建設部道路補修課管理係(23-1111、内線四〇二・四〇三)へお問い合わせください。また、歩道へ車や物品を置かないよう、重ねてお願いします。

参加の市政をめざして

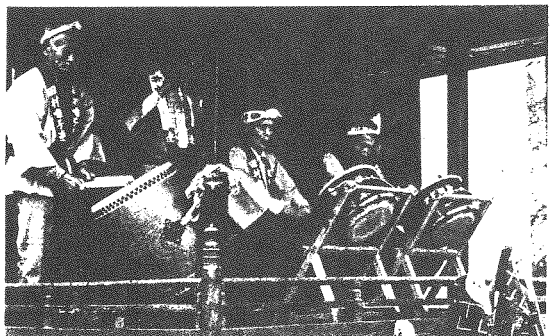
いかに市民の欲求にこたえていくか、全国644の市で、アイデア作戦を展開中といったところである。45歳以上平塚を占うとき、本当にきびしいものが待ちうけているといわざるを得ない。そこで、昭和51年度を振りのを考え、実行に移す手立てを考えてみたい。悔いのない次の世代を迎えるためにも……。



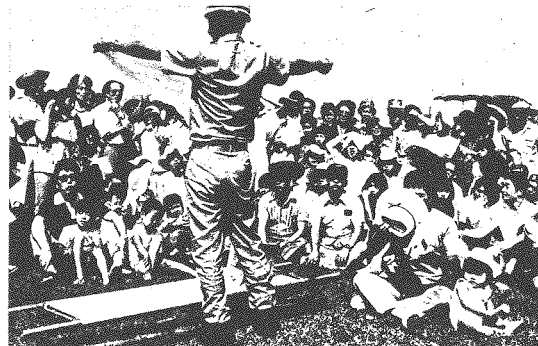
対話集会『みんなの市長室』は、みなさんの意見を積極的に収集して、市民のための市政、市民参加による市政をより大きくするため昨年の6月にスタート。これまでに自治会連合会単位に18か所の対話集会『みんなの市長室』を開いた。



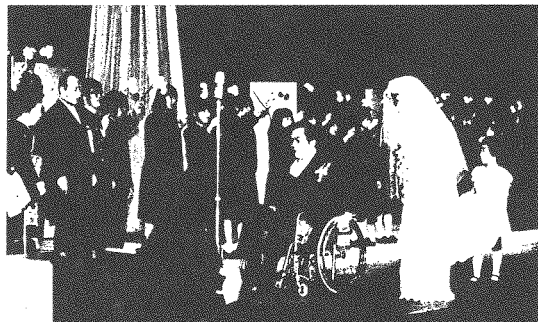
農研跡地を市民の手にと、農林省果樹試験場移転跡地確保促進協議会が進めた10万人署名運動は、大きな反響を呼び、108,167人という多くの方から署名が寄せられた。そして、この署名簿は、2月2日促進協議会の代表6人が、大蔵省を訪ねて坊大臣に手渡した。



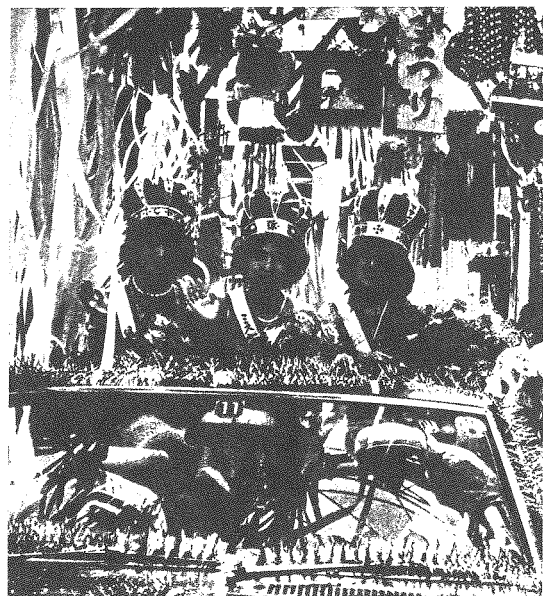
鎌倉時代から伝わっているという『田村ばやし』が、11月24日平塚市無形文化財に指定された。この田村ばやしは、約700年の伝統をもつ民俗芸能で、はやしは7曲からなっている。



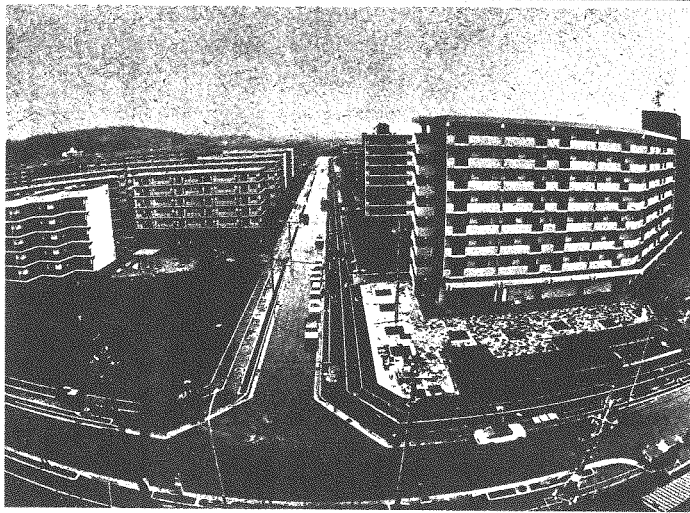
昨年8月『関東地方にマグニチュード7.9の激震が発生し、市内に火災が発生…』という想定で、壺平、桃浜町、黒部丘のみなさんを対象に、防災訓練が実施された。ところで、あなたはグラグラときたら、どうする？—三角さんの説明—



身体障害者に強く生きることを希望し、合わせて思いやりの心と地域社会への連帯意識を高めようと、身体障害者福祉大会が開かれた。この大会で、車いすの新郎と松葉杖の新婦のカップルが誕生し「前途の厳しさを自覚しながらも支え合っていく」と力強く誓いのことばを述べた。



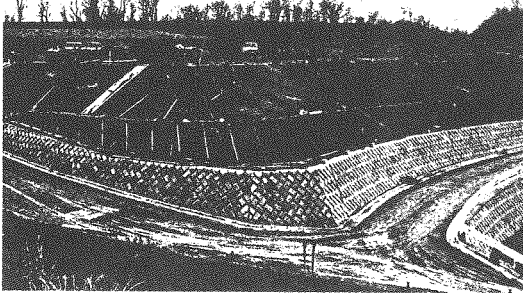
七夕まつりは、20年ぶりに復活したミス七夕コンテストが行われ、布施みどりさん、横川美由紀さん、桐生清子さんが選ばれた。今年は7月7日から11日までの5日間と決まった。



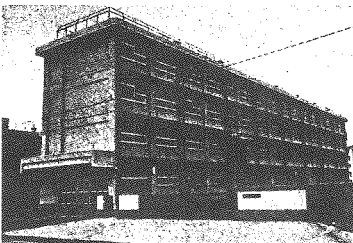
1,467戸約5,000人という平塚市内で一番大きな規模を持つ日本住宅公団の高村団地が完成し、4月から入居が始まる。高村団地は、1月に分譲住宅と賃貸住宅の入居者の募集を行ったが、いずれも定員に満たなかったため、常時受け付けをすることになった。これからは空き室がなくなるまで先着順で入居ができる。



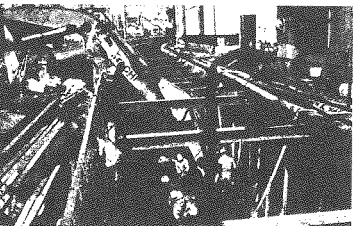
明るい街づくりへ



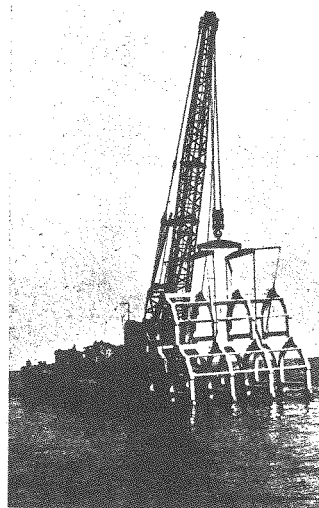
市民ぐるみ運動として求めていた念願の県立普通高校の誘致が実現し、市内片岡に4月1日から五領ヶ台高校として開校することになった。校舎の建設は、昭和52年度になるので、とりあえず太洋中学校の空き教室を利用してスタートする。当初は4クラス、180人で発足、最終規模は1学年12学級、3学年で36学級1,620人の大きな高校となる。



大型団地などの進出により、市周辺部は急激に人口が増加している。51年4月に開校した相模小学校と松が丘小学校に引き続き、52年4月になでこ小学校、勝原小学校、山城中学校が開校する。—写真は勝原小学校—



平たんな平塚市は、急速な都市化により排水は極めて悪くなっている。このため、公共下水道の促進と合わせて、溢水地域を解消するため都市排水路の整備を急いでいる。



魚の増殖と集魚を目的に、魚の家を作ろうと、かまぼこ型漁礁が投入された。高さ5.5m、重さ1.5トンという大変大きなもの。魚を育てる海の牧場としての活躍が期待される。



'76. 行政レポート

市民参

きびしい財政状況の中で、
になった平塚市、これからの
返りながら、平塚に必要なも



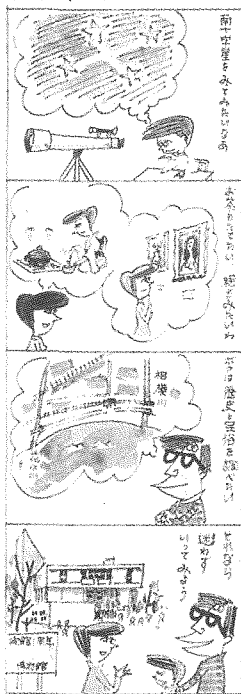
失われゆく自然と緑を回復させ、緑と花がいっぱいある街にしていこうと、平塚市が実践に入って3年になる。緑化条例を中心に、クロマツやサザンカなどの30種の推奨木、推奨花の制定、工場緑化、新築家庭への苗木配布、保全樹木の制定など具体化の手を広げている。また、緑と花の祭典「緑化まつり」も今年で4年目、春の行事としてすっかり市民に定着している。今年は4月29日から5月1日まで。



荒廃地化して利用と健全な余ため「レジャー」になった。こっている農地を土り受け、整備しようとするもの園する。場所は地4,000平方メートルに区切って貸す子供と一緒に野をしなが、余れては…。



ひらつかさん

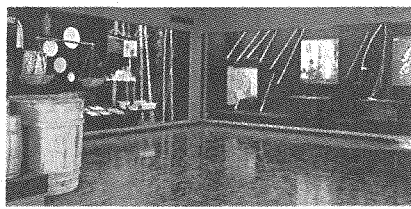


自然観察会 野外に出て、地質や動植物など身近な自然を観察する会。52年度は、相模川河原、大磯丘陵などで毎月一回実施する。「大磯照ヶ崎海岸」での自然観察会。



新興都市である平塚は、文化的に特筆すべきものが少ない。このため、次の時代の市民への布石として、共通の話題を持てる場、文化の拠点となり得ることを願って、文化センターを建設した。三百人収容の学習室を備え、年間貸出し三十六万冊を数える市図書館、勤労青少年の交流の場、教養の場として、県内随一の利用度誇る県立青少年会館、それに、地域博物館としてユニークな活動を展開している市博物館がそれである。そこで今回は、開館後一年目を迎えるようとしている市博物館に焦点を当てながら、春に向けて利用の高まりを見せる文化センターの動きを追ってみたい。

1年目を迎える博物館



展示コーナー 相模の民具



展示コーナー 相模平野と人間

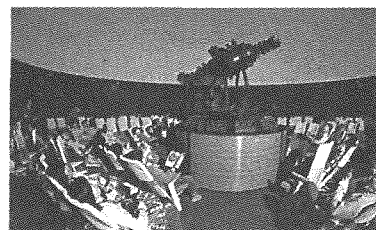


相模の家 市内広川から移築した江戸末期の民家



ユニークな活動を見せる

平塚のほとんどが海だった時代、日向丘や五領ヶ台などの台地に住んでいた古代人は、どんな生活をしていたのか。相模川は私たちの生活にどのような影響力を持っているのか。博物館には、そうした平塚を知る資料が豊富に用意してある。また一方、参加する博物館として、学習会や観察会、講演会などの催しが多くある。目で確め、手で触れ、膚で受け止めながら、共に考え、共にすすむ姿勢の館である。



プラネタリウム 直径10mのドームに四季の星空を再現し、宇宙や天体の神秘にご招待する。土日が一般公開日



特別展示 常設展示で深く扱えなかった内容にテーマを決めて展示する。一開館中の平塚市所蔵美術展から

文化センターのご案内

博物館

図書館

青少年会館

博物館では、誰もがいつでも気軽に足を向けていただけたらと思う。いろいろな行事や展示を計画している。ぜひ、一度おでかけを。ここで、上記以外の施設や催し物について紹介しよう。



博物館
TEL(33)5111-3
〒254 浅間町12-41



図書館
TEL(31)0415
〒254 浅間町12-41



青少年会館
TEL(32)7029
〒254 浅間町12-41

【常設展示】
相模川流域の自然と文化をイメージした。この地域でくり広げられてきた人間の生活とその自然

【茶室】
三溪園にある同指定の重要文化財「春草庵」を模した茶室。茶会にも使える。(有料)

【体験学習シリーズ】
土器作りや草木染めなど、身近な自然を利用して、いろいろな物を自分で作り、古代人の生活を体験する催しを行っている。

【星を見る会】
望遠鏡で実際の星や月を観察する会。毎月一回開かれる。

※その他古文書講座、講演会等も開いているので、毎月15日の広報ひらつかを参考に。

青少年会館は、青少年のみならずが団体活動や楽しい余暇活動の場として、趣味、体力づくり、レクリエーション、話し合いなどを通して、健全な仲間づくりをした。教養を高めたりのための施設で、自由に利用することができ、51年度一年間で十四万人のみなさんに利用していただいた。個人で利用できるコーナーは、

新聞や雑誌を読んだり、自由に談話のできるロビー、ピアノやステレオが置いてある音楽室、デッサン、絵画などがある美術室、民芸品が展示してあるふるさとコーナー、柔剣道場などがあり、いつもみなさんの利用を待っている。また、会館で主催する美術教室やギター教室など催し物については、申し込みは自由に参加できる。52年度の試みとして、ふるさとまつりの共催行事「ファミリーフェスティバル」や、おとしよりを対象にしたお茶会「おとしよりと今日は」等、新しい企画を用意している。みなさんご期待を。詳しいことは、毎月の広報紙で。